

地域自然史と保全

Bulletin of Kansai Organization for Nature Conservation

特集 中池見湿地の保全と北陸新幹線ルート変更問題

Volume 35
Number 2
December 2013



関西自然保護機構
Kansai Organization for Nature Conservation

表 紙 の 言 葉

袋状埋積谷としての中池見

写真・文 宮本 真二

通常、湿原もしくは湿地の存続期間は周辺の集水域からの堆積物の流入等によって埋積が進み、数千年と言われていることから、中池見が、数万年にわたって湿原的な環境が維持されてきたことこそが「奇跡」である。地形学的には「袋状埋積谷」といわれ、地盤の沈降運動によって、水域が維持されてきた。絶滅種の宝庫として中池見は注目されているが、その受け皿としての「袋状埋積谷としての中池見」というフレーズも貴重である。

写真：2013年10月13日撮影

関西自然保護機構（KONC：Kansai Organization for Nature Conservation）

KONCは自然環境保護にかかわる人たちや関心を持つ人たちを幅広く組織して、自然環境保全に関する各分野での研究を結集し、その研究の進歩と自然環境の保護・保全のために努力することをめざして、1978年に創立されました。

KONCはその活動の成果と、会員個々人の学識と経験の蓄積にもとづいて、近畿地方に於ける広い意味での自然保護の諸問題に対する有力なアドバイザー・ボディ（助言勧告機関）として、社会の要請にこたえることを企画しています。

現在、次のような活動をしています。

1. 基礎研究の実施
2. シンポジウム・セミナー・講演会などの開催
3. 現地見学会の開催
4. 研究助成金の交付
5. 会誌・連絡紙の発行
6. 自然保護に関する基礎資料の収集と配付
7. 自然保護および自然環境保全に関する提言と助言
8. 国内外の諸団体との連絡・協力

会の活動は、個人会員・維持会員の会費により、まかなわれています。